

東海理研が歩いてきた 50年の軌跡 1978→1987

- 1983** 昭和58年 7月 レーザーカットマシン、NC ターレットパンチプレスを導入して少量多品種生産体制を確立、本社管理棟建設と相まって会社OA化を実現する
- 1985** 昭和60年 2月 名古屋中小企業投資育成(株)により出資を受けて増資、資本金 41,750,000円となる
- 1986** 昭和61年 7月 当社オリジナル商品・循環式電動ポスター掲示板「くるくるポスター」の開発に着手する
- 1987** 昭和62年 5月 グローリー商事(株)〈現グローリー(株)〉と当社との間で、開発商品「くるくるポスター」のOEM方式に依る販売契約を締結し、本格的生産活動に突入する



入社式 1981(昭和56)年4月



新社屋完成(左) 1983(昭和58)年



創立15周年記念 長良川鵜飼観覧 1983(昭和58)年



ショールームに展示されている年賀用区分棚の前で当時を振り返る

初の新卒新入社員として、 新規開発に積極的な社風を体感。

入社後はまず、板金工場に入って切削や溶接、加工の作業を教わり、加工工程別の作業指示書作成も学びました。現場で3〜4年の経験を積んだ頃、当社に最新のレーザーカットマシンが導入されることになり、20代前半だった私がオペレーターに指名されました。おそらく東海地方での導入は初めて、全国でも数少ない時期のことです。各地から続々と最先端の工作機械の見学者が訪れ、皆さんが感心して見入る中で作業をするのは、緊張する反面、誇らしかったですね。他にNCターレットパンチプレスなど当時としては最新の高額な機械設備が導入され、士気は高まる一方でした。いわゆる少量多品種生産が可能となり、品質も向上。お客様企業からの図面をもとに単体の製作に携わったり、開発品の試作づくりに関わる機会が増えました。

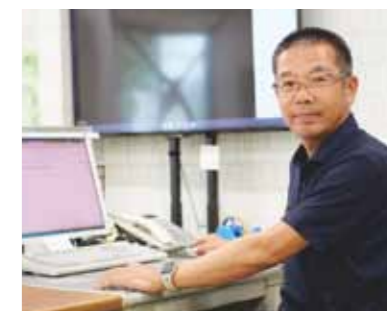
私はオペレーターを経て開発部門へと異動。会長の指揮のもと自社オリジナルの「くるくるポスター」に関わり、OEM品として商品化を成し遂げました。また当時、郵政省の仕分け棚の受注も順調に伸び、新卒社員の入社で社内は若々しくなっており、どんどん活気づいていきました。

最新の設備を導入し 常に新たな技術・製品を開発

美濃へスキーに行ったりと、入社してからの数年間は仕事以外にも特別待遇で過ごさせていただきました。

岩田充徳
セキリティ営業技術部部長
勤続38年

関市立関商工高等学校卒業後、東海理研初の新卒社員として入社。後に1991年の東京営業所開設に際しては、初代所長として赴任。現在、子息も東海理研社員として活躍中。50年後の東海理研はさらに多方面に展開し、知名度を大きく上げていることを期待している。



言われるまま会社見学をした その日に新卒入社が決定!

私の入社当時は、下請けとして遊戯機器用カバリの製作業務が中心だったと記憶しています。他社での経験がある人材を即戦力として採用したり、増え続ける依頼に対応するため未経験者中途採用したりしていたそうです。会社としての体制が整ってきて、将来に向けて「東海理研も新卒採用を」となった訳です。現会長が関商工高校出身という縁から、私は高校の先生に勧められるままに会社訪問をしました。会社見学後に会長自ら車を運転してわが家まで送ってくださることとなり、その道中で「これからのことは何も心配するな！合格通知は出しておくれ」と採用宣言を受け、今に至ります(笑)。私が新卒入社第1号。翌年からは、新卒社員の入社が次々と続いています。そして今年、私の長男が入社しました。

そういえば、私が高校時代にテニス部に所属していたから...と、社内にテニスコートが造られたのですよ。しかも照明付きで。現在はテナント倉庫になっている場所です。もちろん私だけのためのものではなく、社員向けのテニスクールが開かれたり、地元の方にも利用していただこうという趣旨でしたが、嬉しかったですね。野球グラウンドも造成されて社内チームが誕生。郡の駅伝大会にも参加しました。また、私が「海に行ったことがない」と言えば、社長の指示で先輩に連れられ知多半島へ海水浴に、冬は奥

東海理研が歩いてきた 50年の軌跡 1988→1997

- 1988 昭和63年 第20期(昭和62年度)を総売上高14億達成で飾る
- 1989 平成元年 4月 防盜性を考慮したシャッター付き切手類保管箱の開発及び販売
- 1990 平成2年 4月 伊藤忠商事よりCAE-CAD-CAMを導入する
第三者割当株式5万株を発行し、5割を資本金に繰り入れ、資本金9,675万円となる
5月 アマダ製複合機「アベリオ」1台と展開CAD アマコム AP40及び
ブレーキプレス(2m50tNC7付)1台を導入する
- 1991 平成3年 4月 東京都品川区に東京営業所を開設
- 1992 平成4年 年賀用物品の販売開始
- 1995 平成7年 総合担務用物品の販売開始
CD・ブックラック等の流通関連商品の販売開始
- 1996 平成8年 つり銭保管庫・金券投入庫の販売開始

『くるくるポスター』は、1990年頃から大手銀行で採用されるようになった



初期『くるくるポスター』開発の様子

梅村正美

常務執行役員
開発設計部部長
勤続34年

自社開発商品第一号である『くるくるポスター』から、電池を内蔵しICチップを搭載した『スマート@ICキー』の開発まで、東海理研のものづくりの要となる存在。自社の得意分野は他社や大学・研究所のノウハウとの協業とするなど、技術の橋渡し役としても手腕を発揮してきた。



「動きを持った板金加工」から 「ソフトを備えた板金商品」の開発へ。

機構の開発だけでなく 素材の検討、調達も課題となる

また世の中になく新しいものづくりでは、機構の開発・検討はもちろんですが、素材の一つひとつについても、何がベストかを探っていく必要があります。『くるくるポスター』が、まさにそうでした。

会長が中心となつて、鋼材は？ 樹脂は？ ポスターを入れるフィルムはどうする？ 現在のように入ターネットで即座に検索できる時代ではありません。新聞や雑誌の情報をチェックするほか、会社四季報に丹念に目を通して各メーカーの主力製品などを探り、「これは」と思った会社があれば直接電話をかけて問い合わせました。こうした過程で、「ウチでは難しいけれど○○社さんなら」と紹介いただけることもありました。徐々にいろいろな協力工場が見つかって商品化に漕ぎ着けた『くるくるポスター』は、1990年頃から大手銀行で採用されて各支店に設置されることになりました。当社による直接の販売ではなく、会長が当社と最も相性が合うと探し出した会社様とのOEMにより、順調に売上を伸ばしました。以降その会社様とも現在に至る長いおつきあいです。

製品開発で得た技術や絆を 次の製品開発に活かす

『くるくるポスター』からのつながりで、ある都市銀行で用いられる振込用紙の投函箱の開

発・製造も担当しました。ちなみに、現在もこの製造は続いています。こうした開発技術が、1996年に販売を開始したショッピングモール向けの『つり銭保管庫』・『金券投入庫』に大いに活かされています。この開発に際しては、電気系の技術について試行錯誤を繰り返したことが印象深く残っています。

話は少し遡りますが、当社では他社に先駆けて1990年にCAD/CAMを導入。今では設計現場で当たり前に使われ、時代が進んで3D CADが主流となりつつありますが、いち早くCAD/CAMを使い始めたのが、利便さ・省力化には惜しまず投資する当社でした。導入後、全国展開する大手量販店の陳列ラックを大量納入する仕事を請け負った際には、たび重なる変更によりCADが大活躍。手描きによる修正とは比べものにならないくらいに作業がラクだと実感したことを、今もよく覚えていています。

ちなみに、1980年代後半から1990年代後半は、経済的にはバブルが絶頂期を迎え、崩壊した時期と重なります。しかし当社はバブルやその後の景気の冷え込みにも左右されることなく、着実に歩み続けてこられました。これは当社が、小ロット・多品種や特注品の依頼に応じて、大量ではなく「適量のものづくり」を行う姿勢と多分野に商流を持つ強みを貫いてきたからこそだと思っています。当社の開発姿勢に面白みを感じて入社してくる新卒の若者が続き、今に至っています。この先は、日本のみならず世界に通じるオンリーワン企業となっていきたいですね。

東海理研が歩いてきた 50年の軌跡 1998→2007

- 1998** 平成10年 アマダ製3次元CAD/CAM・ASISネットワークの導入により製造部門のダイレクト数値制御(DNC)運転を確立する
- 1999** 平成11年 グループウェア(ロータスノーツF5)の導入、イントラネットの構築からエクストラネットの構築を目指す
12月 本社 ISO9001の認証取得
ASISネットワークアマダ製ネットワーク対応ベンディングマシンを追加しCAD/CAMシステムの充実を図る
- 2000** 平成12年 12月 代表取締役会長に山田由博、代表取締役社長に佐藤明広就任
- 2001** 平成13年 デジタル@オフィス家具開発着手
10月 東京都中央区日本橋に東京営業所移転
- 2002** 平成14年 3月 岐阜大学、ソフトピアジャパンとの共同開発による「顔認識システム」試作機完成
- 2003** 平成15年 デジタル@オフィス家具販売開始
1月 ネットワークセキュリティシステム「アクセルウォール」販売開始
ショールーム「ITギャラリー」開設
- 2005** 平成17年 7月 デジタル@IC キーシリーズ開発着手
8月 東京営業所を東京都中央区日本橋ツムラビルに移転
- 2006** 平成18年 10月 フリーアクセスゲート、グッドデザイン中小企業庁長官特別賞受賞



「フリーアクセスゲート」
グッドデザイン中小企業庁長官特別賞受賞
2006(平成18)年

ネットワーク商品の ものづくりを本格化。

**入退室管理システム等の
ネットワーク商品の開発**

ウィンドウズ95の発売以降、世の中の情報スピードはどんどん加速し、世の中自体が日進月歩の勢いで変化していると感じます。そんな中、1999年に社内イントラネットを構築した当社では、積極的に社内各部門の情報をアップし、部門を超えて情報共有を行ってきました。振り返れば、何事にもオープンな社風は、これによって一層強まった気がします。

2000年頃から入退室管理システムをはじめとする商品開発チームに関わらせていただいていた私は、「開発」という華やかなイメージの陰には、地道な努力の積み重ねがあることを実感していました。例えば当時は珍しい存在だったカードリーダーは、開発当初、カードをかざす位置や角度、タイミングによっては、反応しなかったり誤作動を起こすことがありました。問題解決には、どのような場合に反応が悪く、どうしたら改善できるのか、ひたすら実験・検証を繰り返して原因を突き止め、改善していくしかないのです。

**社会の変化に対応しつつ
人に合わせたものづくり**

ネットワーク商品について言えば、当初は限られた組織内でのイントラネットで作動する前提だったものからインターネット対応、さらに

クラウドサービスと、開発当初から現在までに環境は大きく変わっています。こうした中で、いつの時も開発の際には、トラブルにぶつかっては愚直に原因を探り、改善の糸口を見つけて清々しい気分になるのもつかの間、また新たな課題が立ちふさがり…という繰り返しです。ただ、環境の変化に対応して各種開発にあたっては、社外ネットワークを上手に活用するようになりました。電装品や電子基板など、専門とする方々の技術やアイデアが加わることで、スピードと精度の高さを得られます。社内の私たちにとっては、より広くより良いものを知る機会が広がることにもなります。2002年に試作機が完成した「顔認証システム」も、このような体制から生まれたものでした。

2000年以降、企業においては情報漏洩対策や社員の行動管理などがより強く求められるようになってきました。時代の流れを受け、東海理研はオフィスセキュリティ商品の開発・提案メーカーとして、次々と開発に取り組み、新たな商品・サービスを販売しています。人に威圧感を与えることなくビル入館者を管理・識別する「フリーアクセスゲート」は、グッドデザイン賞も受賞しました。これは、「人がモノにではなく、モノを人に合わせる」という山田創業会長以来の当社の開発・製造姿勢の表れでしょう。世の中に求められる製品・サービスを追求して、開発に終わりはありません。当社は50年後も「東海理研だからこそできた」と言われるものづくりを続けているに違いありません。



創立30周年記念祝賀会 1998(平成10)年
(新聞に掲載されました)

武井雅代

開発設計部 開発設計課係長
勤続24年

経営学部出身で、入社当初は、電算課に所属。営業アシスタント・3年間の育児休暇を経て現職。もともとパソコンやプログラミングに興味・関心が強く、入退室管理システムをベースとしたネットワーク商品の開発に携わる。HPプログラムの編集長。



ショールームに展示されたセキュリティ製品全てに関わっているという武井さん



東海理研が歩いてきた 50年の軌跡 2008→2017



デジタル@ICキー

- | | | |
|-------------|-------|--|
| 2008 | 平成20年 | 2月 デジタル@ICキーシリーズ販売開始
8月 東京営業所を品川区戸越に移転
12月 本社 ISO14001の認証取得 |
| 2011 | 平成23年 | 7月 第1工場開設
8月 トルンプ製ブレーキ「TruBend5085」導入
9月 トルンプ製複合機「TruMatic6000」、材料搬入排出装置「TRUMALIFT Sheet Master」導入 |
| 2012 | 平成24年 | 8月 トルンプ製複合機「TruMatic3000Fiber」導入 |
| 2014 | 平成26年 | 11月「デジタル@IC キータミナル」日本弁理士会会長奨励賞 受賞 |
| 2015 | 平成27年 | 8月 オーセンテック製洗浄機「AuDeBu Rcoon」導入 |
| 2016 | 平成28年 | 8月 トルンプ製パンチプレス「TruPunch3000」、ブレーキ「TruBend7036」導入 |
| 2017 | 平成29年 | 8月 創立50周年記念行事 開催。山田由博 名誉会長に就任
10月 創立50周年記念 セブ島 社員旅行 |

自ら開発設計したデスクの前で



セキュリティ製品の開発で 時代に対応し続ける

東海理研を代表する事業分野となっているセキュリティ関連商品。物品の出し入れや入退室管理を磁気カードリーダーやICカードリーダーを用いて行う機能に始まり、現在は指静脈リーダー、顔認証リーダーなどの技術を取り入れた製品も送り出しています。フロントでロボットが対応するというユニークなホテルの顔認証入室システムも、当社の技術が採用されたもののひとつです。

また、ひとつの鍵だけで複数の扉の開錠が可能となる製品、ICチップ内蔵の『デジタル@ICキー』及びその収納庫である『デジタル@ICキータミナル』開発に関しては「日本弁理士会会長奨励賞」を受賞しました。現在ではより利便性を増した電池内蔵式の『スマート@ICキー』のほか、様々な製品において小型化・軽量化を進めています。スマートフォンサイズのカードリーダーも実現しました。さらに、顔認証機能をクラウドサービスと連携した入退室管理システムの商品も開発中。この10年の間に、セキュリティ分野において当社は大きく進展しました。IoT社会が進展しつつある現在の世の中において、東海理研も日々進化を続けているのです。

自動化によって生産効率を上げ 変化し続ける工場

東海理研の原点である板金加工の分野でも、この10年には目覚ましい動きがありました。



平林拓朗
開発設計部 開発設計課
勤続12年

入社から7年にわたって製造部門で板金加工に携わる。入社当時から設計に興味を持っていたこともあって、その後、開発設計部へと異動。現在は物品保管庫や入退室管理の筐体などについての設計業務に携わっている。



パソコン保管庫 2012(平成24)年

セキュリティ分野も加工分野も 飛躍を遂げた10年。

第二工場では、10年ほど前までは「人が機械を操作し、人が機械を動かす」ことが基本となっていました。それが、この10年の間に最新の機械・設備を続々と導入し、現在では「人が操作し、機械が自動で動く」という半自動化を実現させてきたのです。加工用の材料や金型を機械が自らセットして、加工し、加工し終えた製品を機械が自動的に所定の位置へと並べていきます。製品の加工情報の設定を行うのは人ですが、設定さえ済ませれば、無人となる夜間に、例えば暗やみであっても機械によって自動的に稼働させることが可能となりました。加工作業の間は人が張りついている必要はありません。人が眠っている夜間に機械が自動で動き続けることで作業効率は大幅にアップし、社員の作業時間を短縮させることも可能となっています。このように現在、半自動化が稼働率・生産高の上昇に大いに貢献し、ものづくり現場の様相も働き方も変化を遂げつつあるのです。将来的にはクラウドを利用して製造プログラムを遠隔操作し、協力工場と機械をシェアする可能性を追求します。

第二工場の変化・進展と歩調を合わせて、組立工場も10年の間に姿を変えています。エリアの拡張、設備の一新がされ、より一層の生産量の増大が可能となりました。

他社に負けない、いえ、むしろ他社をリードする東海理研の開発・ものづくり体制。この姿勢は、今後も50年先も変わることはないでしょう。50年後には私は定年退職を迎えています。50年後であっても理研とのつながりを持ち続けたい。そう思わせてくれる「働きがい」のある場所です。

東海理研が歩いてきた 50年の軌跡 2018→2019

2018 平成30年 9月 アマダ製高精度ベンディングロボットシステム「HG-1003ARs」導入

2019 平成31年 3月 アマダ製複合機「ACIES-AJ シリーズ」導入

クラウドサービスの推進に向け、 大きく踏み出す。

入社1年目にして
海外長期出張のミッション

金属製品の開発・製造にはじまり、最先端のID認証システムを組み込んだオフィス用セキュリティ製品『デジタル@シリーズ』など、各種セキュリティ商品と金属製品の開発・製造・販売を進めてきた東海理研。創業50年を経て、2019年は『クラウド元年』とされます。

2018年入社した私は、設計部門に配属となり、3次元CAD設計ソフトウェアの操作や、各種ソフトウェアを使った設計作業など、設計業務で必要となる知識やスキルのすべてを入社後に仕事を通して一つひとつ学びました。そんな私が、2019年早々に、ベトナムの協力会社に当社の設計部門を立ち上げる大役を担って現地に向かうことになったのです。

クラウドサービスを活用して
広く世界とつながる将来へ

入社後にゼロからスタートした私だからこそ、ベトナムでは、わかりにくいことを相手が理解できるように伝える工夫ができたと思います。通訳を介して設計の専門用語を伝える苦労はありましたが、相互に確認し合い、かえってコミュニケーション力が深まりました。

今後、主流となっていくであろう海外協力会社との提携業務を設計の立場から支え、事業拡大の推進力となっていきたいです。



OBが語る
東海理研

海外に進出し、
さらに社員が活躍する
組織を目指してほしい。

私の義父・石田徳衛は、仕事への取り組み姿勢や愛社精神を東海理研に根付かせた立役者の一人だと思っています。しかし、愛社精神が人一倍強かったのは、やはり社長たちでしょう。

山田会長は若き社長時代、暮れの大掃除で片付いていない社員の道具を放り出して怒鳴っていました(笑)。「常にあるべき場所」を置き、クオリティの高い仕事につなげよ」という教えです。当時の中小企業では不十分だった退職金制度をいち早く整えたり、利益は社員に還元するなど、社員第一の姿勢が伝わってきたから、社員たちは喜んでついて行きました。佐藤社長は時代を先読みし、ネットワーク・セキュリティ製品の開発・販路拡大に積極的に取り組みつつ、社員の士気を高めています。

これからも社員思いで、特に若手の成長をサポートしつつ、広く世間に認められる存在として企業価値を高めてもらいたいですね。

稲田勝秋

専務取締役を務めて2002年退職
現在、社外顧問
勤続35年

東海理研の社員教育の礎を築いた伝説の社員・石田徳衛氏を義父とし、営業社員として中途入社。東海理研が組織力を高め、現在のよう成長していくまでのすべてを見てきた。生き証人でもあり、現場からは退いた現在も温かく東海理研を見守り続ける。

東海理研が歩いてきた
50年の軌跡



後藤洋哉

開発設計部
勤続1年

就職活動中、企業展でたまたま声をかけられ、展示ブースで紹介されていた「カードリーダー」や「デジタル@ICロック」に興味を持つ。会社訪問をして、働く人たちに笑顔がある社風にひかれ、「長く働き続けられる職場」と感じて入社を決めた。



ベトナム会社のサッカー大会に出場
チームメイトと優勝旗を掲げて

